

B—83 衣服寸法に關係のある身体長徑項目の年令的變化

—男女小・中学生について—

青山学院女短大	磯谷	藤枝
東京家政学院大○	原田	隆子
都立町田高	佐藤	清子
東京医科・歯科大	市川	悦子

1. 私共は、被服構成学の立場から、成長期にある男女児の体型の性差ならびに年令的變化を把握することを目的とし、身体計測による基礎調査を行なった。今回は衣服寸法に直接關係があると思われる長徑數項目を用いて検討を行なってみた。

2. 資料は、1966年7～9月に東京都内某私立学校に在籍する男女小学生674名、中学生308名、合計982名について行なった身体計測結果の一部である。研究項目は身長・下肢長・袖丈・背肩幅・足長、ならびに身長に対する示數値4項目（下肢長／身長・袖丈／身長・背肩幅／身長・足長／身長）である。

3. 主な成果は次のようである。

a) 計測値について——男女とも加齢に伴い漸増するが、計測値5項目は女子では、小学校6年をすぎると横ばいのカーブに移る。

b) 示数值について——身長に対する下肢長の比率は、小学校1年では男女とも約50で身長の1/2であるが、学年の進むに従い増大し、男子は約54（中学校2年）を最大、女子は約53（中学校1年）を最大とし、以後やや減少の傾向がみられる。身長に対する袖丈の比率は、小学校1年では男女とも約31で、学年の進むに従い漸増の傾向を示し、中学校2・3年で約32となる。身長に対する足長の比率は、小学校1年では男女とも約16であるが、学年の進むに従い僅かながら漸減の傾向を示す。身長に対する背肩幅の比率は、男女とも全学年にわたり25前後である。